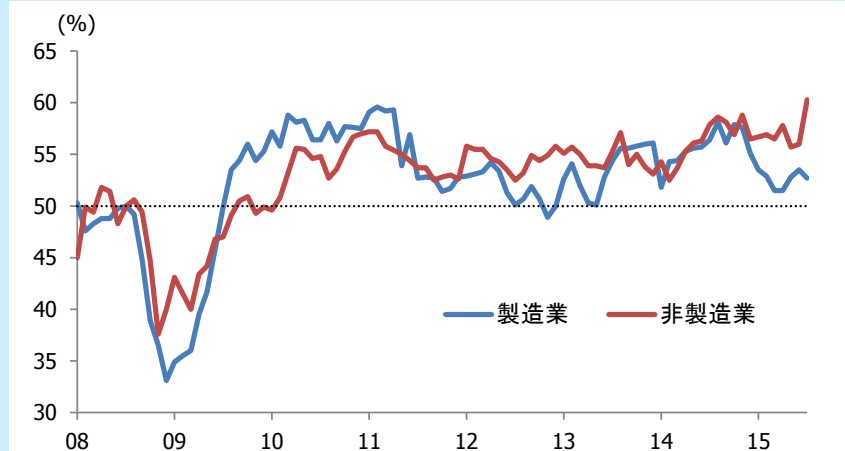


# 米国：ISM景況指数（2015年7月）

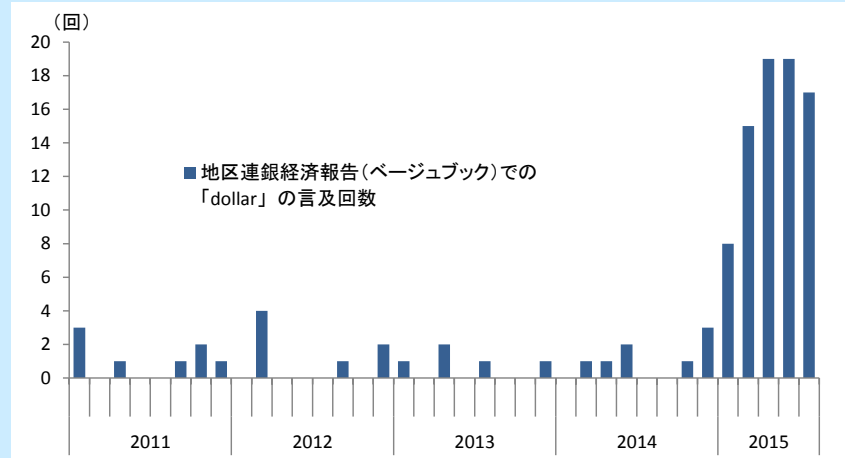
## MRI Daily Economic Points August 7, 2015

### 図表1 総合指数



資料：米供給管理協会

### 図表2 地区連銀経済報告でのドル高の言及回数



資料：FRB

### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 7月のISM製造業景況指数(総合、8/3日公表)は、52.7と前月(53.5)から小幅低下。14年後半以降のドル高や海外経済の回復の遅れによる輸出の鈍化を背景に、50.0～55.0前後の水準での推移している。
- 項目別にみると、新規受注(56.5)、生産(56.0)、入荷遅延(48.9)は上昇したものの、雇用(52.7)と在庫(49.5)が低下。輸出(48、総合指数には含まれない)も3ヶ月連続で低下した。
- 7月のISM非製造業景況指数(総合、8/5日公表)は、60.3と前月(56.0)から大幅に上昇。堅調な内需を背景に、2005年8月以来の高水準となった。
- 項目別にみると、ビジネス活動(64.9)、新規受注(63.8)、雇用(59.6)、入荷遅延(53.0)など幅広い項目で上昇した。また、50を上回り企業活動が拡大した業種は18業種のうち15業種であった。一方、鉱業は8ヶ月連続で50を下回った。原油安がシェール関連の企業活動を抑制しているとみられる。

#### 基調判断

- 製造業では、ドル高や海外経済の回復の遅れによる輸出の鈍化が景況感の抑制要因となっている。地区連銀経済報告(ページブック)でも、ドル高の言及回数が増加しており、ドル高の影響への懸念が高まっている。一方、非製造業の景況感は、堅調な国内消費を受けて高い水準で推移している。

#### 今後の流れ

- 先行きは、堅調な内需を背景に、非製造業を中心に企業活動の緩やかな拡大が続くとみられる。
- ただし、①金融政策の正常化過程で先行きの金融政策の見方が変化し、長期金利が急激に上昇する可能性や、②ドル高が企業収益の減少を通じて投資を抑制する恐れ、③原油安によるシェール関連企業の活動鈍化が他産業に悪影響を及ぼす可能性、には留意が必要である。